

品川支部

令和五年4月1日発行

〒 141-0022

品川区東五反田1-8-5

TEL 3442-7075

4月

天理教品川支部（豊英分教会内） 発行責任者 栗原薫 編集 支部編集部

四月は新年度、コロナ後で イベント満載

四月はイベント満載、まずは四日立教186年東京教区記念祭が模擬店復活で開催、本部では十八日教祖御誕生祭で続いて十九日は婦人会総会が制限無く行われます。

そして二十九日は全教一斉ひのきしんデーで、品川支部では海浜公園で、暖かい光と新緑の芽生えの中、お弁当を広げることも出来るようになりました。昨年同様の軽食も配布致しますのでコロナ禍の我慢を一気に喜びに換えて三年千日の初年を盛り上げましょう。



海浜公園でひのきしん

☆支部行事のお知らせ

二十九日全教一斉ひのきしんデー

品川支部は規模を縮小して開催予定

現地昼食可、詳細は二頁掲載

・教区ひのきしん

四月五日(日)午前九時半

都南組の当番ですが、無理の無いようとの事

・支部幹事会

四月九日(日)午後六時(都南にて)

・みんなでひのきしん

東京教区では、百四十年祭の活動として

「みんなでひのきしん」をテーマとしています

・神名流し 一日午前十時開始

終了後、ゴミ拾ひひのきしん

・大井在宅介護センター 二十八日九時半からの二日を支部のひのきしん活動の日としていますので、沢山の方の参加をお願い致します

☆教務支庁からのお知らせ

・ペットボトルキャップで

途上国の子どもにワクチンを

現在、一トンを超えるキャップが集められています引き続きご協力の程お願い致します

又、水の浄化に利用出来るとのことで

使用済みの使い捨てのカイロも同時に募集をしています。こちらにもよろしくお願い致します

・教区記念祭詳細

立教百八十五年四月四日

午前十時より祭典執行

受付は八時四十五分開始

祭典お勤めは八交代で行います

記念講演

やまとよふき分教会長

深谷 太清 先生

記念講演終了後3年ぶりに屋台が

出ます。お赤飯を配布致します

配布予定は一時半頃になります

*当日は参加者登録した方のみになりますので、お近くの教会で参加希望をしておいて下さい

・小鼓稽古

毎月一回程度、都南分教会の一

室で日にちを決めてプロの先生に小鼓を教えて頂いています

おつとめで小鼓を担当される方。

これからの方がもう少し上手になれたらと思う方に最適です

通常プロの方に手ほどき頂くとか

なりのお金が掛かりますが、無料で教えて頂けます。是非この機会に

試してもご参加下さい

*希望の方は都南分教会まで連絡下さい

小鼓は持参で行います

四月のお稽古は十三日の夕勤め後、六時半から

時報手配り四月予定

品川支部は、早くから手配りの実施を進めて参りました。教友とのふれあいを大事に今後とも宜しくお願い致します

拠点教会	5日号	12日号	19日号	26日号
日本橋	直送	手配り	手配り	手配り
本 荏	手配り	手配り	手配り	手配り
南 泰	手配り	手配り	手配り	手配り
三ツ木	手配り	手配り	手配り	手配り
水豊田	直送	手配り	手配り	手配り

全教一斉ひのきしんデー

日にち 4月29日 (土曜祝日)

場所 海浜公園

時間 十時から十一時半迄

九時半現地集合

マスクは戸外であることもあり 基本的には必要ありませんで自由です

十一時半 おにぎり等軽食の配布あり

今回は終了後、午後一時には駐車場の閉鎖に なりますが、それまで以前通り、

その場で支部の軽食に加え各自持参の お弁当で過ごすことも出来ます

信仰の変遷の中

年祭へ向け

本荘大教会長



以前、毎年国連が発表する世界の幸福度ランキングに関する話を聞いたことがあります。二〇一八年の調査では、日本は国内総生産が世界第三位、健康寿命と平均寿命は世界二位、犯罪率の低い国の第六位であるにも関わらず、幸福を感じている度合いは世界の百六十五カ国中で、第五十四位であったということでした。

その話から、国の豊かさとは信仰心というものには実は関係性があるのではないかと気になり、調べてみたところ、アメリカのギャラップ社の調査では、国が豊かであるほど、信仰心が薄い。又、世界的にはGDPと国民の気分は負の相関関係がみられるということでした。ところが、世界でただ一カ国だけ、これに当てはまらない国がアメリカだそうです。

世界第一位の経済大国でありながら、信仰心にも篤い、極めて例外的な国です。しかし、そのアメリカでも

このところは宗教離れが進んでいるんだそうです。ピュー研究所の二年前の調査では、アメリカでは過去十年の間にキリスト教の信者の数が減少し、無宗教の人の数がほぼ同じだけ増加していることがわかったそうです。また、どの宗教にも属さない人々や無神論者、宗教に特に関心がないと回答した人は、十年前には約十八%だったものが二〇二一年には二十九%と十一%も増加したそうです。

フィンランドの心理学研究者、フランク・マルテラさんは神を強く信じている人でさえ、その信仰が「近代化」している、そこには四つの大きな特徴があると言います。

一つ目は、信仰が意識的であること。昔は神を信仰するのはごく自然なこと、信じないという選択肢を考へることすらなかったけれども、今、神を信じている人は

信じないという選択肢があることも知った上で、信じることを選択しているということ

二つ目の特徴は、神を信じる人も、そうでない人と同じように、世界の成り立ち、世界の仕組みについての科学的な説明を概ね受け入れているということ。信仰心の極めて強い人は、確かに一部に神の関与があると主張するけれども、そういう人たちであっても、例えば車が故障した時にそれを神の思惑と考へることなく、単なる機械の機能不全だと理解する。

三つ目は、日常的に多様な宗教に接しているということ。世界の多様化と比例して、特に都市部では様々な宗教の違う人たちと接しながら、それをほとんど意識しないということ。

四つ目は、信心深い人であっても、困難を乗り越え、成功を収めるのに神に頼ろうとは考へないということ。私生活上の小さな問題であれ、社会的に大きな問題であれ、その解決のため、証拠に基づいて論理的に解決策を考へ、神のお告げを待つようなことはない。

ここでは信仰というものが、社会の変遷と共に、近代化をしていると分析しています。説の賛否は別にしても確かに私たちの信仰は、信仰初代の頃のような純粹で熱烈で直線的な信仰とは、良くも悪くも質が変わってきているのだからと思います。

そうした変化を信仰的に悪と捉えるのか、自然と捉えるのか、人それぞれの違った意見も受け入れる時代になりましたが、年祭活動に入った今、信仰というものを様々な角度から見つめつつ、陽気ぐらし世界の実現のために何ができるか、どうしていけば良いかを思案で終わらせずに、行動で示せる「ようばく」になりたいと心に思う今日この頃です。

田中豊一